



ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2019 の実施報告



ESD 推進ネットワーク全国フォーラム（以下「全国フォーラム」という。）は、原則毎年 1 回、ESD 推進ネットワークの主たるステークホルダーが一堂に集い、ESD に関する最新の国際動向、国内動向、ネットワーク形成の状況を共有するとともに、相互のつながりを構築・強化することにより、ネットワークが成長するための機会として開催されます。

2019 年は、ESD に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）の最終年であり、GAP 後継プログラムが国際的に策定される年であることを反映し、次のステップに進むための意見交換を中心としたプログラムとなりました。

- 主催： ESD 活動支援センター、文部科学省、環境省
- 共催： 独立行政法人国立青少年教育振興機構
- 後援： 日本ユネスコ国内委員会
- 協力： ESD を推進する全国・地方の組織団体及び ESD 活動支援地方センター（44 団体）
- 出展： 52 件
- 開催日時： 2019 年 12 月 20・21 日
- 会場： 国立オリンピック記念青少年総合センター

本フォーラムには全国各地から 2 日間でのべ 424 人が参加しました。これは 2018 年度ののべ 369 人、2017 年度ののべ 260 人を大きく上回りました。NGO・NPO 等が最も多く（22%）、学校及び学校教育関係者（19%）、公益団体（16%）と続いています。本年度初めて参加した者が全参加者の半数以上を占めており、また、従前と比べて企業、企業団体からの参加が増加したことが特徴的でした。



全国フォーラムの目的は、①ESD 推進ネットワークのこれまでの成果について確認すること、②ESD に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）の後継プログラムである「ESD achieving for SDGs（ESD for 2030）」を踏まえて、その国内実施に向けた提案につながる意見交換を行うこと、及び③参加者・参加組織・団体による連携の契機とし、全体として、ネットワークのさらなる発展に向けた機会とすることです。そのような目的を踏まえて 5 つのセッションが開かれました。

◆セッション 1：ESD の国際動向・国内動向

文部科学省から、グローバルアクションプランの成果と概要、新学

習指導要領のポイント、日本が海外に向けて発信している事例等の紹介が、環境省から第 5 次環境基本計画の根幹となる地域循環共生圏の考え方、ESD 推進ネットワークの取組状況、成果と概要のとりまとめの状況についての紹介が行われました。

◆セッション 2：パネルディスカッション：SDGs を地域で達成していくための人づくりとそのためのネットワークのさらなる展開

地域で ESD に取り組んでいる教育委員会、学校、社会教育施設、自治体、企業というセクター別の実践の例に学び、SDGs を地域で達成していくための人づくりについてパネルディスカッションが行われました。

◆セッション 3：グループディスカッション：

地域で ESD を広め、深めるための課題と工夫参加者自身の ESD 実践や関心に基づき、ESD for 2030 の国内実施に向けてセクター毎にグループを形成し、ディスカッションが行われました。

◆セッション 4：分科会：ESD for 2030 を見据えた ESD 推進のあり方

5 つの分科会で、ESD 実践に関わる話題提供を受け、様々な組織の視点から ESD for 2030 の国内実施計画の策定に向けての提案のために意見交換を行いました。



- ・分科会 1：新しい学習指導要領をふまえて社会とすすめる ESD
- ・分科会 2：企業がめざす地域における SDGs 人づくり
- ・分科会 3：ユースと共に進めるマルチステークホルダーの連携
- ・分科会 4：体験活動を提供する組織内の ESD 意識醸成
- ・分科会 5：AI 等の技術革新と教育・人材育成について考える

◆セッション 5：全体総括

分科会成果を共有し、フォーラム全体をふりかえり、成果と今後の展望を共有しました。

参加者アンケートによると、フォーラムの全体評価、並びに各セッションの評価は、「大変良かった」、「良かった」との回答がいずれも 80%を超え、参加者の満足度が高かったという結果となりました。また、「GAP の後継プログラムである ESD for 2030 を踏まえて、その国内実施に向けた提案につながる意見交換を行う」という本年の目的に照らして、全国フォーラムでの議論がうまくスタートができたと考えています。本フォーラムの詳細の報告は、追って Web サイトに掲載いたします。（<https://esdcenter.jp/>）

INDEX

ESD 推進ネットワーク全国フォーラム 2019 実施報告 …P1
 ESD の国際動向と国内動向について ……P4
 地域担当理事の活動紹介 ……P6

羅臼事業の進捗報告…P2-3
 企業インタビュー ……P5

羅臼 Project の続報

ESD-Jは2019年度ユネスコ活動費補助金「SDGs達成の担い手育成（ESD）推進事業」を受け、北海道の羅臼町をフィールドとして取り組んでいます。SDGs×ESDレポートVol.2.でご報告した事業のその後をお伝えします。



2019 年度ユネスコ活動費補助 SDGs 達成の担い手 (ESD) 推進事業

～『知床学』を通じた地域資源の発掘と地域振興の担い手づくり～

関東担当理事：大塚 明



地域の応援団「協議会」の発足

羅臼との交流を続ける中で、それまで外からは見えなかった課題や問題が見えてきました。それは、全国のユネスコスクールにも共通した課題と言えますが、ユネスコスクールに加盟した当初は熱心に ESD を推進していても、時間が経ち、先生が入り代わり、次第に ESD の実践が形だけ残り、同じ内容の繰り返しになってしまう傾向があるというものです。

羅臼の学校現場においても、地域に開かれた学習へと一歩進めるために、総合的学習の時間に、地域の協力や知恵を借りています。しかし、現場では新たな取り組みを始めたくても誰に相談したらよいのか分からずに困っていることが分かりました。羅臼では ESD 実践を支え、地域に開かれた学習を展開するには、地域と学校を繋ぐ仕掛けがまだ十分でないという方向性が見えてきました。

そこで、昨年9月頃から羅臼町のユネスコ協会の方や地元の起業家、学校の先生などの多様なキーパーソンを巻き込んで、何度か話し合いの機会を設定し、総合的学習の時間に地域の支援を得る形を模索しました。地域の方々からは、提供出来る話題、その話題を提供できる人材を挙げてもらい、同時に、学校側からは、欲しい情報を挙げてもらい、双方の摺り合わせを行いました。この話し合いを通じて、非常に貴重な、羅臼の昔の生活を記録した映像があることも分かりました。

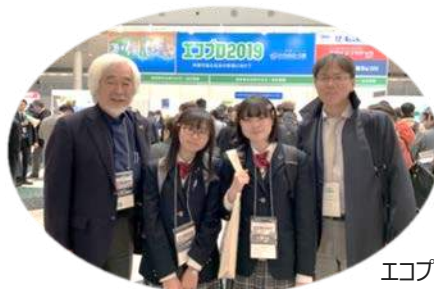
この話し合いが、地域の応援団「協議会」として定常的に機能し始めるには、まだ少し時間がかかりますが、地元の知的資源・人的資源を体系的にリスト化しようという意見もあり、今後の発展につながりそうです。

地域の課題を解決する鍵は、地域の応援体制にあるので、この地域の応援団「協議会」が発展していくよう支援していきたいと思います。



その他の活動報告

- 6～7月：小・中・高校生を対象にアンケートを実施（実態調査）
- 12月：東京ビッグサイト「エコプロ 2019」に羅臼高校生2名、教員を招へい
- 12月：長崎県「対馬学フォーラム」で、羅臼高校生2名による羅臼高校の取組みの紹介と羅臼のPR発表の機会の提供
- 12月：羅臼町ユネスコスクール研究発表会に参加



エコプロ 2019 訪問



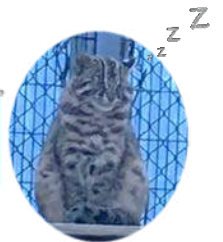
ユネスコスクール研究発表会の様子



対馬学フォーラムにおけるポスターセッションの様子

羅臼 Project の続報 (つづき)

羅臼高校 2 年生の生徒 2 名が選出され、長崎県対馬市で 12 月 8 日に行われた「対馬学フォーラム」において羅臼の取り組みを発表、エコプロダクツ展（於：東京ビックサイト）を視察しました。生徒からの感想、報告です。



ツシヤマメネコ

北海道羅臼高等学校 2 年 川島 美奈

■ エコプロダクツ展（以下、エコプロ）の見学：

琉球大学ブースでエコロジカル・キャンパス学生委員会が取り組んでいる海岸清掃活動 plogging の説明を受け、羅臼にもゴミ問題があり、小中高一貫で町の清掃を行っているため、沖縄の取り組みに興味深く拝見しました。



今回エコプロを訪問して、小学生から大人の方まで多くの方が環境課題やその解決策について発表していたことに刺激を受け、将来的に羅臼高校も羅臼の自然の豊かさや課題（ゴミによる海洋問題等）について発表する側で参加したいと思いました。

■ 対馬訪問：

対馬野生生物保護センターを訪問し、ツシヤマメネコの車との接触事故や、絶滅を防ぐために人為的に餌を置き取り組み等について学びました。絶滅危惧種や天然記念物の動物は羅臼にも生息しているため、対馬の島外からのホームステイを受け入れ、環境課題を学んでもらう取り組みについても勉強になりました。



対馬市内の視察

■ 対馬学フォーラムの発表：「クマ学習について」

2018-2019年の夏にかけて一頭の危険個体のクマにより犬 6 匹が襲われる事件が発生しました。インターネット上では「クマを射殺するのは可哀想」というような声が多く見られますが、クマが犬を襲う事件というのはここ最近のクマ関連案件の中で最も危険な事件であり、未だこのクマが捕まっていないので、クマの危険性とこのような事件があることを広く伝えたいと考えました。本来クマは臆病なので、人間から接触しない限り襲ってきません。クマが人間の生活圏に入ってきて、犬を襲うに至った、環境の変化や、現地の事情について対馬の方々にも分かってもらい、クマと人の共存について考えて欲しいと思いました。発表を見た方からは、「クマは雑食性であること、本来人を恐れることを初めて知った」などの感想が挙がりました。

今回日本には多くの環境問題があり、それに対して学生から大人まで多くの方が関心を持ち、解決への糸口を探しているということを知りました。そのため、動物の誤飲防止のための定期的ゴミ拾い等、私たちも地域の方々と、身近な問題に取り組みながら、環境問題の解決のために尽力したいと思います。私は、羅臼を世界自然遺産の町と言われるに相応しい自然があふれ、食が豊かで、ゴミがない観光客が楽しめる町にしていきたいです。

同校 2 年 三河 愛奈

■ エコプロ訪問：

エコプロのテーマ「持続可能な社会に向けて」の取り組みを様々な企業、学生がポスターセッション形式で発表しました。今までの学校の授業の中では、「持続可能な開発」を自分事として捉える機会がなく、強い関心がなかったのですが、エコプロに参加してみて具体的な取り組みに触れたことで興味が湧きました。どの地域にも羅臼とは違う環境問題があり、地球温暖化対策等についてとても勉強になりました。特に印象に残っている商品展示は三陸ワカメやきゅうりエキス、ネパールのハチミツなどを使って作っている化粧品です。植物由来のものを優先して使用しているため肌に優しい化粧品が揃っていました。そして、ワカメを使っているので同じ海藻類の昆布も活用できるのではないかと思います。



琉球大学ブースの訪問の様子

■ 対馬学フォーラムの発表：

「昆布に含まれるグルタミン酸（旨味成分）」

羅臼昆布、日高昆布、道南の真昆布の三種の昆布のアミノ酸を比較するために薄層クラマトグラフィ（TCL）という方法を用い、グルタミン酸が羅臼昆布に最も豊富に含まれていたという結果を発表しました。グルタミン酸が豊富な羅臼昆布は濃厚な出汁を取ることができます。また他の産地の昆布に比べ羅臼昆布は手間暇をかけて生産しているので味や香りにも大きな違いがあります。羅臼昆布の出汁を使った料理等を通じて、もっと美味しさを多くの人に伝えたいです。羅臼について発表してみて、改めて羅臼町には他の地域にはない独自の素晴らしい自然があると実感することができました。



実験の様子

今回の研修は普段の学校生活では経験できないような学び・体験ができ、とても有意義でした。改めて羅臼の自然と向き合い後世に残せるような活動を今後実践したいです。私は、羅臼の自然はそのまま残しつつ、若者に魅力的な活気の溢れる町にしたいと思います。

ESD の国際動向と国内動向について

中国地方担当理事 池田満之

2019年12月19日、国連総会本会議においてESD（持続可能な開発のための教育）に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）の後継枠組みである「持続可能な開発のための教育：SDGs達成に向けて



（ESD for 2030）」が採択されました。「ESDが質の高い教育に関するSDGに必要不可欠な要素であり、その他の全てのSDGsの成功への鍵として、ESDはSDGsの達成の不可欠な実施手段である（a key enabler of all the other SDGs）」と決議に明記されました。

（詳細はこちら⇒ <https://bit.ly/2tKHWmt>）

～GAPのレビューと今後に向けた提言～

2019年度、「ESD for 2030」の国内実施計画の策定に向けて、政府による「我が国における持続可能な開発のための教育（ESD）に関するグローバル・アクション・プログラム（GAP）実施計画の最終年における評価」（活動内容、成果、課題、今後に向けた提案等の把握）が行われています。そのため、ESD-Jでも、理事、会員、元理事を通して国のレビューで拾えないきめ細かな現場の声（民意）を拾って、このプロセスに反映させるための政策提言に取り組んでいます。

ESD-Jが集めた現場の声を一部ですが、以下に紹介します。

『ESD促進に関する活動の主な問題や課題』としては、「20代後半～50代の層の活動者が少ない」「担当者の異動で継続・深化が難しい」「活動資金不足」「活動評価の可視化が難しい」などの問題が、「ESD推進のためのコーディネーター・リーダーの育成」「学校教育におけるESD、SDGsの推進」「企業及びユース世代への普及」などの課題が挙げられました。

『どのような取り組みを行ってきたか』としては、「勉強会の開催」「広報面の工夫、様々な分野での位置づけの工夫、協賛者探し」「担当者に焦点を当てたネットワーキングとホールスクールアプローチの推進」「地域活動の核となる市民センターや公民館等を中心に、ESD出前講座、ESDコーディネーター育成講座、館長及び活動者の交流会等を実施」「ユースの登録バンクを作りメンバーリストを作成」「企業との協働推進、地域リーダー養成」などが挙げられました。

『今後、取り組んでいきたいこと』としては、「学校とノンフォーマル教育機関との連携や市民社会・NPO/NGO・行政との協働による持続可能な学校、地域づくり」「ESDはSDGs達成のために必要な人材育成と位置づけ、教育現場・企業内でESDの普及への相乗効果を狙っていく」などが挙げられました。

『今後更にESDを推進するための要望を含めた意見・提案等』としては、「SDGs達成のためにもESDが重要であることをしっかり周知・普及してほしい」「ESD地域コーディネーターを配置するなど、様々な分野におけるESD専門職（コーディネーター）設置の制度化、勇気をもって変革に取り組むリーダーシップを持った人の育成に取り組んでほしい」「政府の方針がより一層ボトムアップで作成されるように、多くの人の声を聴く場を設定してほしい」「ESDの推進は、文部科学省、環境省が中心であるとしても、多くの省庁にまたがる活動であり、一層の省庁間連携を進めていただきたい。そのため、ESD関係省庁連絡会議のより効果的な活用を図るとともに、特に、外務省、消費者庁、国土交通省、農林水産省、経済産業省等との積極的な連携・協力を進めていただきたい。」などが挙げられました。



ESD-Jは、これらの声を国内実施計画に反映させるべく、政府に働きかけてまいります。

E-チャレンジ結果報告

azbilみつばち倶楽部杯 E-ファンドレイジング・チャレンジ



オンライン寄付サイトGive One
登録団体を応援しよう!

2020年1月16日まで



2019年12月3日から2020年1月16日まで、パブリックリソース財団による「E-チャレンジ」が実施されました。ESD-Jがチャレンジしたプロジェクトは、「社会問題を“解決できる人”を育てる教材開発」でした。

教材開発のためのファンド目標額11万円(100%)を達成いたしました。ご協力くださった皆様、本当にありがとうございました。

これまでESDカフェTokyoや、グリーンチャレンジデーで紙芝居の作成・上映を実施してきましたが、複雑な国際・環境社会問題にも関わらず、子供も保護者も高い理解と問題意識の共有が図られました。この活動を深め、広めていくために教材の開発を進めていきたいと考えています。本活動の実施に関しては、当団体ウェブページ等で報告していきます。

(URL: <http://www.esd-j.org/>)



熱心に聞き入る子どもたち



「木を植える人を育てる」という理念のもと、環境分野で活躍する人材の育成と環境保全に関する活動・研究への支援をしてこられた SOMPO 環境財団様の活動について伺いました。



1992年にブラジルのリオ・デ・ジャネイロで開催された、環境と開発をテーマとする国際会議に親会社（現・損保ジャパン日本興亜（株））の当時の社長が参加し、これからは“環境”と“NGO”の時代になると確信したことを契機に、企業グループとしての環境取り組みをスタートしました。1999年4月、グループのCSRの一環として地球環境保全に資することを目的とし、SOMPO環境財団（2020年1月（公財）損保ジャパン日本興亜環境財団より名称変更）を設立しました。

当財団の活動の柱の一つとして、20年間継続している「CSOラーニング制度」があります。この制度は、大学生・大学院生を8ヶ月間インターンとしてCSO（Civil Society Organization = NPO/NGO）に派遣する制度で、活動時間に応じて奨学金を払う仕組みです。2000年より累計1,000名以上をCSOに派遣してきました。本事業が長く継続している理由としては、何よりも学生の受け入れ団体の協力と理解を得られてきたこと、そして学生と受け入れ団体双方のニーズを満たし、一定の成果をあげてきたことがあげられると思います。

本制度への参加により、学生たちはインターン先 CSO、OB/OG、同期のインターン生から刺激を受けて一層、環境や社会貢献活動への関心を深め、ネットワークを活用してこれまで興味なかった分野の活動にも積極的に参加したり、環境・非営利組織に関連するキャリアを目指したり、獲得した知識・経験を活かしたポジティブな行動変革をもたらしてきました。



CSO ラーニング同窓会

2018年2月に開催された本制度のOB/OG同窓会には、インターン第1期生を含めて、計160名以上が参加し、本制度のネットワークの強さと持続性が証明されました。また、その際に実施したアンケート調査によると、民間企業就業者のうち20%が環境関連企業や部署、シンクタンク等に所属しており、7%は非営利組織に所属、そのうち5名は本制度の派遣先で就業したというような結果が出ました。また、40%のOB/OGは今も何らかの社会貢献活動に従事しているという嬉しい成果でもでした。このような実績を基盤に、2019年2月からはインドネシアでも同制度をスタートしています。

当財団のもう一つの大きな事業であり、開始して27年目となる「市民のための環境公開講座」は、市民の積極的な環境活動を促す目的で公益社団法人日本環境教育フォーラム（JEEF）・損害保険ジャパン日本興亜株式会社と協働で実施しています。これまで、開催回数は400回以上、参加者は21,700名を超えました。一般市民を対象に実施しており、講座内容は時代の変遷・社会のニーズを反映して多様化してきました。

2019年1月には、開講25周年記念として「市民のためのSDGsフェス」を開催しています。



市民のための環境公開講座

この他にも、「環境保全プロジェクト助成」（NPO・NGO や任意団体の取り組む環境保全プロジェクトへの資金助成）や、「学術研究助成」（環境問題をテーマにした人文・社会科学系の博士号取得論文の作成にかかる費用の助成）を実施しており、どちらも15年を超える実績があります。

近年、若者の社会貢献の分野が多様化し、とりわけ“環境”にフォーカスした活動に関わりたい学生が減っているというニーズの変化を感じることがあります。しかし、SDGsの達成に向けて世界が一丸となって取り組むにあたり、どのような活動でも環境との関連性は常に念頭に置かなければならず、環境問題の重要性が低下することはありません。そのため当財団は、今後も上述の活動を中心に、未来を担う人づくりに尽力していきます。

各活動の詳細は下記のWEBサイトをご参照ください。

<https://www.sompo-ef.org/>



CSO でのインターンの様子



インドネシア学生のワークキャンプ



四国地方 『ESD のつながる力』 四国地方担当理事 小松 柊成

四国には、2017年7月に立ち上がった「四国地方 ESD 活動支援センター」と9つの「地域 ESD 活動推進拠点」があり、四国の ESD に関するさまざまな情報が同センターに集まりつつあります。2019年11月、同センター長の近森憲助氏の呼びかけにより、四国初「地域 ESD 拠点交流会」が愛媛県新居浜市にて開催されました。

四国では、四国の ESD を牽引している新居浜市教育委員会をはじめ、地元の中小企業も ESD 拠点として登録されているという特徴があります。当日は、徳島のハレルヤ（製菓製造会社）、高知の土佐山田ショッピングセンター、愛媛の IKEUCHI ORGANIC（タオル製造会社）と平野薬局、そして、地域のユネスコスクールを支援する香川の高松ユネスコ協会、市民活動団体/NPOとして、うどんまるごと循環コンソーシアムやえひめグローバルネットワークといった多様な主体が一堂に会し、それぞれの本業と ESD の取り組みの関連・つながりについて共有し、顔が見える関係づくりを行いました。



モザンビーク応援タオル・ハンカチ

さらに、ESD 拠点間の協働の一例として、企業と NPO の「ESD・SDGs 商品開発」の紹介もありました。オーガニックかつフェアトレードの原料のみを使い、風で織るタオルとして有名

な IKEUCHI ORGANIC と、20年にわたりアフリカ・モザンビーク支援に取り組んでいるえひめグローバルネットワークが「モザンビーク応援タオル・ハンカチ」を作成。2020年に開催される東京オリンピック・パラリンピックのモザンビーク選手団のホストタウンとなった自治体（愛媛県・松山市・新居浜市・伊予市）や市民をつなぐ、具体的な SDGs 推進にも貢献するモノづくりが生まれました。この取り組みは、商標登録されている「ESD ロゴマーク」を付した第1号の商品として、商品開発のストーリーがプチ漫画で紹介されるようです。



地域 ESD 拠点交流会の様子

また、日程の都合がつかず参加できなかったもう1つの高知の ESD 拠点、室戸ジオパーク推進協議会は、オオグソクムシなど深海生物とのわくわく・ドキドキする ESD プログラム企画があるとのこと、次回どのようにつながっていけるか楽しみです。

私は、同世代のユースを巻き込みながら、あらゆる世代、分野の仲間がつながり、チーム四国で2030年のSDGs達成に向けてグローバルな視点を持ちながら活動をしていきたいと願っています。まだまだユースの参画が足りないという課題を感じていますが、引き続き、四国の ESD でつながる場づくりに努めたいと思います。

日本自然保護大賞

「沼田真賞」の受賞

当団体代表理事の阿部治が同賞を受賞致しました。日本環境教育学会などの設立・運営に深く関わるとともに、「国連 ESD の10年」の提言や取り組み、日本をハブとした環境教育国際ネットワークの構築などを通じて、日本の環境教育の国際化、並びに世界の環境教育の発展に大きく貢献したことが高く評価されました。本賞の受賞は、ひとえに会員の皆様のご支援の賜物です。深く感謝いたします。3/22(日)に受賞記念シンポジウムが開催されます。



URL : <http://www.esd-j.org/news/3113>

第5回 ESD Cafe Tokyo を開催します！

2020年2月22日(土) 14:00-16:30



国の天然記念物 『ニホンヤマネってなあに？ こまっていることって？』



(公財)キープ協会/清泉寮やまねミュージアム担当の饗場葉留果(あいば はるか)さんをお迎えして、ニホンヤマネの魅力と、ヤマネを守るために私たちには何ができるかを考えるワークショップを開催します。

羊毛クラフトで自分だけのヤマネ作りも実施します。子どもも大人も楽しめるイベントです。参加希望の方は QR コードにアクセス、またはメール jimukyoku@esd-j.org までご連絡ください。



饗場 葉留果さん

URL : <http://www.esd-j.org/news/3134>

特定非営利活動法人持続可能な開発のための教育推進会議 (ESD-J)

〒116-0013 東京都荒川区西日暮里 5-38-5 日能研ビル 201 T:03-5834-2061 F:03-5834-2062 M:jimukyoku@esd-j.org

◎会員募集中：正会員（10,000円）、準会員（3,000円）詳しくは WEB サイトをご覧ください。

■会費や寄付の支払いにクレジットカードが使えるようになりました。右の QR コードからアクセスできます。

